

# 英語科 学習指導案

日 時 平成21年11月17日(火)第5校時  
学 級 紫波町立紫波第一中学校  
3年2組 38名  
場 所 3年2組教室  
授業者 三浦 信之

## 1 単元名 Unit6 20th Century Greats

## 2 単元について

### (1) 単元について

本単元では、「20世紀の偉人たち」を主題とし、マザー・テレサ、手塚治虫、ペレ、ヘレンケラー、ジョン・レノンの5人の人物の中から1人選んでレポートを作るという内容で構成されている。Reading for Communication ではレイチェル・カーソンの業績をレポートとしてまとめ、紹介している。レイチェル・カーソンに関わっては、地球環境問題についても取り上げ、考える機会としたい。日本人ばかりではなく、世界で20世紀に活躍した人物について知るとは、単なる英語学習にとどまるのではなく、国際社会の中で生きる日本人として、とても重要な学習の一つであると言える。よって教科書で紹介されている人物以外にも、いろいろな人物を知る良い機会でもある。また、単元のまとめの段階では、レポート紹介となっており、レポート作成、そしてそのレポート発表という授業を展開していくことは、3年生のまとめの学習として適切であると考えられる。

言語材料では、接触節及び関係代名詞を取り上げている。前単元Unit5では、過去分詞、現在分詞を用いた後置修飾（後ろから名詞を修飾する形）の学習をしている。そもそも後置修飾の文は2種類に分類され、一つ目は「名詞を修飾する語句」ともう一つは「名詞を修飾する文」である。それを整理してみると次のようになる。

名詞を修飾する語句

①前置詞+語句 ②不定詞 ③現在分詞 ④過去分詞

名詞を修飾する文

① 接触節 (that/which) ②関係代名詞 who ③関係代名詞 that (which)

本単元では、「名詞を修飾する文」を取り扱う。その最初に取り扱うのが接触節である。これは前単元の流れから、その名詞を修飾する語句が文になっただけのことであるので、そんなに難しさは感じないかもしれない。ここで一番疑問を生じさせやすいのが冠詞の問題である。a と the のどちらを使用するかである。これについては、the を使用するとき、限定された人や物という考え方で指導する程度にとどめたい。次に関係代名詞であるが、本教科書では、主格として先行詞が「人」の場合は who を、「物」の場合は that または which を使用している。目的格の場合、先行詞が「物」の場合に that または which を使用するが、省略される場合（接触節）も多いので、最終的には（ ）を用いて英文を表現したい。

### (2) 生徒について

3年2組に行った英語学習に関わるアンケート結果は次のとおりである。

	アンケート項目	選択肢	割合
1	英語学習の中で、「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の中であなたが好きな活動はどれですか（複数回答可）	聞くこと	44%
		読むこと	58%
		話すこと	6%
		書くこと	33%
2	英語で話すことについて ① 授業で習った表現を使って友達やALTに話してみたいと思いますか。	ぜひ話してみたい	14%
		少しなら話してみたい	36%
		あまりそう思わない	31%
		全く思わない	9%
	② 教科書での対話練習やあるテーマについて会話する際、友達やALT、先生と会話に進んで参加していますか。	進んで参加している	20%
		一応参加している	58%
		あまり参加していない	19%
		ほとんど参加していない	3%
	③話す活動は、どれくらい行うことができますか。	モデルとなる表現に、知っている表現を加えて話すようにしている	3%
		モデルとなる表現に、知っている表現を時々加えて話すようにしている	11%
		モデルとなる表現を使って話している	58%
		モデルとなる表現がなかなか話せない	27%
3	英文を書くことについて ① 授業で習ったことを使って自分のことを書いて表現してみたいと思いますか。	ぜひ書いてみたい	17%
		少しなら、書いてみたい	39%
		あまりそう思わない	33%
		英文を書きたくない	11%
	② これまでに教科書で習った表現を使い、与えられたテーマや場面にそって、自分のことをどれくらい書くことができますか。	習った英文を使って自分のことを4,5文程度書くことができる	3%
		習った英文を使って自分のことを3文までは書くことができる	53%
		習った英文を使って1文は書くことができる	33%
		習った文がなかなか使えない	11%

この結果から、表現の中心である「話すこと」「書くこと」が好きでないという生徒はかなり多くいる。また習ったことを用いて、話したり、書いたりしたいという生徒は6割程度であり、4割の生徒は意欲面から向上させていくことが必要である。日常生活を見ても、自分の伝えたいことを日本語で書いたり、話したりする表現力が乏しい生徒が多く、英語の中で表現力を指導していくことは実態として難しい。

従って実際の授業では、モデルに従って書いたり、話したりする単純な練習を数多く、繰り返し行っている。そのことで、英語を使う経験を増やし、自信を持たせることができると思う。

### (3) 研究と関わって

本校英語科で高めたい表現力は「与えられたテーマで、自らの思い・考えや事実・情報など伝えたい事項を、適切に書いたり、話したりする」として捉えている。

導入段階では、授業のスタートを集中させるため、あるいは興味関心を持たせるために、下記のことを1単位時間に1つまたは2つを実施している。

- ・ 音読マラソン（教科書本文の速読練習）
- ・ 5分間プリント（基本文の音読、視写）
- ・ 単語テストや確認テスト
- ・ 辞書引き競争

展開部分では、表現活動が適切にできるように、定着練習を十分に行うようにしたい。与える表現パターンも、どの生徒でも取り組めるように配慮したい。発表場面では、発表者は音読の声の大きさやスピードに気をつけさせ、聞く側は、聞き取りの視点を確認した上で、聞くことに集中させたい。

終結部分では、何が分かるようになったかを書かせることで、自分自身の1単位時間での学習の成果と課題をはっきりとさせたい。

### 3 単元の目標

<コミュニケーションへの関心・意欲・態度>

20世紀の偉人たちに興味・関心を持ち、その人物たちについて知ろうとする。

<表現の能力>

新出文型を用いて、書いたり、話したりして表現することができる。

<理解の能力>

本文の内容を正しく理解することができる。

<言語や文化についての知識・理解>

新出文型の形・意味・用法を理解することができる。

### 4 指導計画と評価計画

時間	学習課題・学習内容	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての知識・理解	評価方法
1	Starting Out 接触節の形・意味・用法を理解し、表現することができる	20世紀の偉人たちへの興味を持つことができる	接触節を用いた英文を表現することができる		接触節の形・意味・用法を理解することができる	学習シート
2	Dialog 関係代名詞 who を用いた文の形・意味・用法を理解できる。		本文を正しく音読することができる	レイチェル・カーソンについて英文を読み、概要を理解することができる	関係代名詞 who を用いた文の形・意味・用法を理解することができる	学習シート
3 本 時	Dialog 関係代名詞 who を用いた英文を表現することができる。	積極的にグループ活動に参加しようとする	関係代名詞 who を用いた英文を表現することができる	他者の発表を聞いて、内容を理解することができる		学習シート

4	Reading for Communication 関係代名詞 that(which) を用いた文の形・意味・ 用法を理解し、表現する ことができる		関係代名詞 that(which) を 用いた英文を 表現するこ とができる	英語の人物辞 典を読み、レイ チェル・カーソ ンの業績を知 ることができる	関係代名詞 that(which) を 用いた文の 形・意味・用法 を理解するこ とができる	学習シート
5	Reading for Communication 関係代名詞 that(目的格) を用いた文の形・意味・ 用法を理解し、表現する ことができる		関係代名詞 that(目的格) を用いた英文 を表現するこ とができる	レイチェル・カ ーソンについ ての伝記を読 み、内容を理解 することがで きる	関係代名詞 that(目的格) を用いた文の 形・意味・用法 を理解するこ とができる	学習シート
6	Reading for Communication 20世紀に活躍した人物 について、レポートを書 くことができる	グループで協 力して、発表レ ポートを作成 できる	20世紀に活 躍した人物に ついて、レポー トを書くこと ができる			学習シート レポート作 成
7	Reading for Communication 20世紀に活躍した人物 についてのレポート発表 を聞き、内容を理解する ことができる	グループで協 力して、レポー ト発表できる	レポート発表 のための音読 をすることが できる	レポートの発 表を聞いて、内 容を理解する ことができる		学習シート レポート発 表

## 5 本時について

### (1) 主 題

Unit 6 Dialog

### (2) 目 標

関係代名詞 who を用いた英文を表現することができる。(表現の能力)

### (3) 本時の構想

本時は、Unit 6 Dialog (2時間扱い) の2時間目である。本来は1時間扱いであるが、粉単元で一番表現活動に力を入れさせたいと考え、2時間扱いとした。導入部分では5分間プリントを用いて、前時の基本文復習を行う。この取り組みは、全ての生徒がいつも真剣に、集中して取り組んでいる。授業の展開部分では、はじめに前時に学習した主格の関係代名詞を用いた英文の形や意味を確認させた上で、関係代名詞 who で説明された人物が誰なのかをあてるクイズを聴き取り形式で生徒に出題する。そのクイズに答えさせることで質問内容が理解しているかどうか分かり、同時に何回も関係代名詞の英文を耳になれさせることができる。そしてこれらの質問は、次の表現練習の際にも利用できる。表現練習場面では、関係代名詞を使うにふさわしい場面設定をしたい。そこで、大半の生徒が知らないと思われる人物について紹介する場面とする。最初は人物紹介の英文作成であるが、表現パターンを提示し、そのパターンに従

って英文作成させる。その後、その作成した英文を発表できるように音読練習に取り組ませたい。そしてできるだけ暗記して離せる段階まで指導したい。英文作成、音読練習ともに、グループでお互いに協力し、助け合いながら活動させたい。発表の段階では、班毎に1人ずつ、写真を用いてその人物を紹介するという方法で行っていく。そして発表の際は、話す声の大きさやアイコンタクトなどに気をつけさせたい。聞く側には、聞き取りの視点に基づき、発表後に聞き取ったことをメモさせるようにしたい。

(4) 本時の展開

段階	学習項目	学習活動	時間	指導上の留意点
導入	1. あいさつ  2. 基本文の復習	1. あいさつを行う 月日、曜日、天気の確認  2. 前時に学習した基本文を読んだり、書いたりして練習する	7	<input type="checkbox"/> 「聴き取る力」を高める手立て ☆導入段階ではリズムよく進めること。そして注意の集中ができる内容にしたい。 ★学習シート ★5分間プリント 基本文の内容 She is the scientist who wrote Silent Spring.
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">             関係代名詞 <b>who</b> を用いた英文を使って、ある人物について紹介しよう           </div>				
展開	3. 基本文の確認  4. 表現練習	3. 基本文の確認 (1) 基本文の形、意味の確認 (2) 関係代名詞 who を含む英文を聞いて誰のことかを当てる  4. 表現練習 (1) 説明を聞く (5分) (2) 英文作成する (10分) (3) 音読練習する (5分) (4) 1人ずつ発表を行い、その他の生徒はメモをとる (10分) (5) 自己評価する (1分) (6) 全体の前で発表する (2分)	8          3 3	★学習シート  <input type="checkbox"/> 「聴き取る力」を高める手立て <input checked="" type="checkbox"/> 評価場面Ⅰ：誰のことを説明した英文かを理解できているか(学習シート、発表) <input type="checkbox"/> 「確かに伝達する力」を高める手立て ☆表現パターンの提示 ☆班で協力しながら、英文作成、音読練習をさせる <input checked="" type="checkbox"/> 評価場面Ⅱ：正しい英文が作れているか、できるだけ暗記して伝えることができるか(学習シート、観察、発表)
終結	5. 単元評価カード記入	5. 単元評価カードへの記入	1	<input type="checkbox"/> 「自分の意図を明確にする力」を高める手立て ★単元評価カード